

enu Information E3

2010年度
第4号
No.251

Young
Entrepreneurs
Group



長崎商工会議所青年部 平成22年度スローガン

きょうじ

『次代へ、YEGの矜持を胸に』

国内視察研修

「土佐」

～幕末の志士ルーツをめぐる～

CONTENTS

- ビジネス交流事業 in NBCラジフェス2010
- 平成22年コラボ長崎(異業種交流研修)発表会
- 第30回九州ブロック鳥栖大会
- 9月講師例会
- 10月講師例会
- 第4回『長崎検定合格への道』

長崎商工会議所青年部

ビジネス 交流事業

in

NBCラジオフェス 2010

2010.10.16-17
〈sat-sun〉



10月16日から17日にかけて行われた「NBCラジオフェス2010」に長崎YEGの会員ブースを展開する形でビジネス交流事業を行いました。心配された天気も快晴となり、多くの市民の方が会場を訪れました（NBCの公表で約8,000人の来場）。実際に店舗を構えた出展が19社、チラシの配布での参画が26社、参加者のべ83名の参加となりました。

ブースは野外コンサート会場の横のテントブースと屋内のインフォメーションコーナーの2か所をお借りしました。屋外は「フード&ドリンクコーナー」「くらしの中のYEGコーナー」と称し、ブースを展開しました。さらに、集客の為に「量作り体験」や「龍馬の肉声体験」を無料で出来る「YEG体験コーナー」も設置しました。屋内は「くらしに役立つ相談コーナー」「会員企業チラシコーナー」と称しブースを展開し、会員企業・長崎YEGのPRを行いました。さらに、長崎YEGの活動や会員企業を印刷した「豪華景品が当たるYEGクイズ」を作成し、来場の皆様に配布しました。体験コーナーは2日間で、子供から老人まで70名以上が参加し、クイズの応募は514通の応募を頂きました。また、10月10日より17日にかけて20秒のラジオCMを70本放送した他、16日は、ラジオフェス会場のステージでYEG紹介コーナーを10分間設けて頂き塚田恵子アナウンサーと中村（隆）委員の司会のもと10名がステージに上がり、YEGとブースの宣伝を行い（ラジオ放送外）、17日はスキッピーがYEGブースを訪れ、3分間YEGとブースの紹介を生放送で行って頂きました。さらに、27日に「満腹ワイドラジDONぶり」に橋元副委員長と中村（隆）委員が生出演しYEGの紹介とクイズ当選者の発表を行いました。結果として、出展者の皆様の「ビジネス」に少なからず触れることが出来たことと、長崎YEGの名を今までにない形で知らしめることが出来たことは収穫でした。また、陽気な天候も手強い和気あいあいとした雰囲気の中、ブース間の交流や家族間の交流が行われ、楽しい事業となりました。

反省点としては、事前のYEG内でのPR不足で参加者数を伸ばせなかったことや、チラシの校正ミス、予算外の経費が多々あった事等が挙げられます。また、出展者の声として「ブースが狭すぎる」「思った程売上が伸びなかった」等のマイナス意見があったものの、「勉強になった」「企業のPRが出来た」「また出展したい」との声も頂き、総論としては実施した意義があったのではないかと思います。

最後に、出展者の皆様、御協賛いただいた皆様、会場に足を運んで頂いた皆様、準備にあたり手伝って頂いた皆様の御協力と御支援のもと、なんとか無事に事業を終えることが出来ました。深く感謝を申し上げて報告とさせていただきます。

ビジネス振興委員長 小林 央幸

国内視察研修

「土佐」～幕末の志士ルーツをめぐる～

2010.11.5-7 fri-sun

11月5日～7日まで、2泊3日の行程で高知県へ行って参りました。初日、JRで岡山まで移動し、その後バスに乗り換え、四国へ移動しました。四国入りした頃、ちょうど昼食時間となりましたので、ぶっかけうどん発祥のお店で昼食を取り、その後、金刀比羅宮参拝を行いました。家族や仕事のことなど、それぞれに参拝を行い、本事業の研修地高知県へ移動しました。

初日は、龍馬伝効果などについて高知YEGのメンバーと意見交換会を行い、その後、場所を移して懇親会を行いました。両単会の親睦をおおいに深めることが出来ました。また、懇親会で高知のお座敷遊びも学び、高知の方々のおもてなしを十二分に受けさせていただきました。

2日目は、ろまん社中や岩崎弥太郎の生家などを研修し、それぞれに様々な夢や志を再確認されたようでした。また、長崎の経済と深い関わりを持つ、岩崎弥太郎の生家の庭にあった日本に見立てた置き石や桂浜で太平洋を見て、みなさん何かしら感じられたようでした。

最終日は、300年の歴史を持つ日曜市や高知城を見てまわり、その後、帰路につきました。今回の移動に使用した新幹線を良く見ると、1回での輸送量とそのスピードに圧倒され、その快適さもふまえると、国内移動の主戦力になる気がしました。ただ、長崎ルートがフル規格ではないようで、若干、取り残されそうな気もしました。

最後になりましたが、ご参加いただきましたみなさま、多々ご迷惑をおかけすることもありましたが、みなさまのご協力により本事業を成し遂げることが出来ました。ありがとうございました。

特別事業委員長 香月 力



高知県土佐に
つきちゅうよ!
(つきました)



こんがりさんまで
よろしくぞよ♡



高知YEGと
意見交換会&親睦会!
土佐のお酒もまっこと
らまいぞね!!



龍馬も食べてた!?
YEGメンバーお手製の
土佐名物 かつおの
たたき!!



平成22年度

9月講師例会

商工会議所2階ホール

2010.9.28 tue

今回の講師例会は、現・平戸YFG会長そして次年度県連会長予定者であられる(株)SOUDAの早田圭介氏を講師にお迎えし、講師で自身が経験された補助金を活用した地域活性化への取り組み・経験等を中心に語って頂いた。まず冒頭、「講師と言うよりは同じYEGのメンバーの話としてお聞き下さい。」の一言。謙虚で気さくな早田氏らしい一言である。「親父に騙されて」平戸に帰ったと冗談交じりに語る氏だが、その前は大学卒業後に野村證券(株)に居た経歴の持ち主。足で稼ぐ「野村イズム」を叩き込まれたそうだが、そのフットワークとバイタリティーはまさしくと言った所である。

講演の中心になったのは2年連続で受賞したという日本YEGの「ビジネスプランコンテスト」の覇者。0泊3日と形容されていた研修や朦朧とした中でのプレゼンを掻い潜りやっとの思いで形にしたと言うプラン。この「野菜のり販売」事業プラン、実は約10年前に1度失敗した事業だった…。さまざまな経験…例えば、最初の開発品は紙の様な食感で売れなかった事や浦島海苔との合併で中国に工場を建設したが相手の破綻により白紙となった事やその時学んだ国際交流のあり方等、受賞したのは失敗と共にそれらの経験が間違いなく次のステップへ活かされているからだと思った。信念そして諦めない事。実現するに際して今何をすべきか常に考えておられる所や臆さず行動し続けるその姿勢は、同じ青年経済人として学ばなければならない姿だと考えさせられた。

同氏のバス事業においても同様である。補助金を「どう利用するのか」ではなく、補助金はあくまで「過程」に過ぎない。



講演後の懇親会でも「地方の小さな都市はアイデア勝負ですから。」と謙遜にも似た言葉で語られていたが、この勢いで100億円という目標もいつか早田氏なら達成するのではないかと思わせるものを感じた。我々と同じ県内に住む現役YEG会員が、自らの事業だけでなく愛する地域を元気にして行く＝活性化の為に取り組み・奮闘する姿は、これからの長崎活性化の参考になるだけでなく聴いていた会員1人1人の心に何かを与えてくれたのではないだろうか。

地域活性化委員長 古田 雅義

平成22年度

10月講師例会

商工会議所2階ホール

2010.10.26 tue

今回の講師は、九州教具株式会社の代表取締役である、船橋修一氏をお招きし、『YESマンはいらない』というテーマについて語って頂いた。九州教具株式会社という文具会社に、アルバイトでまず入社された船橋氏が、自分の会社に入ってまず思ったことが、「10年持たないな」という厳しい感想から講演が始まった。その船橋氏が、現在は代表取締役社長に就任され、その会社を発展し、人材を育成するプロセスを船橋氏の経験から話していただき、非常に参考になりました。たとえば、社員満足度を高め、その覚醒した社員がお客様の満足度を高めることが、企業品質を高めることだとお聞きし、このことは全ての業種に当てはまる事項だと感じました。さらに、単なる物の横流し業からサービス業になろうという発想から、全くの異業種であるホテル業に進出したことが、この企業品質を高めるためであったという点も、非常に興味深く感じました。また、ホテルのインターネット予約のホームページを作成するため、ネットシステムのノウハウを学ぶ必要性があったので、社員に楽天市場にチョコレートショップを出店させ、月間売上1位を達成させたということも驚愕ですが、ネットシステムのノウハウを取得するという目的を達成したことで、楽天市場からあっさり撤退したということが、経営理念およびビジョンに基づき行った行動であるということをお聞きし、目先の利益に走るのではなく、長期的な視野による会社経営が必要であるということ学びました。講師講演後の懇親会でも、「バイカー修ちゃん」というまた異なった顔のお話もお聞きでき、フランクな人柄にも触れることができました。講師講演にご参加頂いた会員の皆様、ご清聴ありがとうございました。



例会委員長 渡辺 浩一

第4回 長崎検定合格への道



まだまだ続く「長崎検定合格への道」。
 青年部メンバーの長崎検定への興味増幅、そして合格者増加を目指して
 皆さんのお手伝いができればと考えております。
 「エヌ」に掲載されるこの問題を解いていけば、自然と合格する力がつくはず？です。
 また、成績優秀者には豪華賞品贈呈が予定されていますので、奮ってご参加下さい！
 目指せ1級!!・・・まずは3級から。
 (自己研鑽委員会)

第13章 長崎の居留地・幕末編

- Q 1. 明治初期に居留地の外国人の間で多く利用された新しい乗り物は何？
 ①蒸気機関車 ②人力車 ③チェアかご ④馬車 ⑤バス
- Q 2. 居留地時代の当初、長崎港の主力輸出商品だったものは何？
 ①米 ②茶 ③麦 ④クジラ ⑤生糸
- Q 3. 坂本龍馬らが中心となって長崎にできた、日本最初のカンパニーと呼ばれるものは？
 ①長崎株式会社 ②土佐商会 ③海援隊 ④亀山社中 ⑤九十九商会

第14章 長崎料理と食文化編

- Q 4. 長崎名物トルコライス、ピラフの上ののっているものは何？
 ①串カツ ②牛肉 ③スパゲティ ④トンカツ ⑤キャベツの千切り
- Q 5. 卓袱(しっぽく)料理の「卓」は中国語でテーブルのこと。では「袱」は何？
 ①テーブルクロス ②円卓 ③高級料理 ④料亭 ⑤宴会
- Q 6. 南蛮料理によく使う野菜で、鴨南蛮の由来となったものは何？
 ①キャベツ ②ネギ ③パセリ ④ジャガイモ ⑤ニンジン

第15章 長崎遊学とゆがりの人物編

- Q 7. 福澤諭吉は安政元年(1854)何を学ぶ名目で長崎遊学した？
 ①造船術 ②航海術 ③砲術 ④英学 ⑤蘭学
- Q 8. 長崎に住んでいた「姿三四郎」のモデルは誰？
 ①石橋友吉 ②原田豊一 ③田代正 ④高木与作 ⑤西郷四郎
- Q 9. ラナルド・マクドナルドに英語を学んだのは誰？
 ①大隈重信 ②松田典雅 ③本木昌造 ④福澤諭吉 ⑤森山栄之助

第16章 原爆・平和問題編

- Q 10. 長崎に原子爆弾が投下された日の長崎市の人口は？
 ①約15万人 ②約18万人 ③約20万人 ④約24万人 ⑤約30万人
- Q 11. アメリカの原子爆弾開発計画は何とよばれた？
 ①ルーズベルト計画 ②アインシュタイン計画 ③マンハッタン計画 ④ヒロシマ計画 ⑤ナガサキ計画
- Q 12. 永井隆博士が平和を願い被爆地に贈った植物は？
 ①楠 ②柿 ③カラスザンショウ ④桜 ⑤ビワ

解答欄						
Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	
Q 7	Q 8	Q 9	Q 10	Q 11	Q 12	

★解答欄に記入後、本ページをコピーのうえ、12月10日までに事務局へFAX願います。
 送信先:長崎商工会議所青年部事務局 [FAX:095-825-1490]

委員会名▶
 氏名▶

平成22年コラボ長崎(異業種交流研修)発表会

2010.10.5 tue 商工会議所2Fホール

約半年に渡り携わってきた長崎市主催のコラボ長崎成果発表会が行なわれました。市長・副市長を前にしてのプレゼンテーションで、会場は市職員を中心に100名以上の聴衆で埋められ、マスコミも取材に来るなど活気ある中で行われました。

①「コラボLABO 長崎」(川添副会長・平川委員参加) テーマ「長崎のシティプライドを高める洋館活用～本物に出会う食のプロによる空間演出～」②「『よか処(寝床)』発掘隊」(溝上監事・梶原委員・渡辺委員長参加) テーマ「空家を留学生でコモン～留学生をふるさと大使に～」③「チーム水餃子」(古田委員長・李委員参加) がテーマ「国際観光船お見送りフェスティバル事業1000人お見送りでギネス登録」の順でプレゼンを行いました。各チームとも短期間ながら非常によく作り込んであり、民間とのコラボのメリットでもあるそのアイデアや着眼点に対し非常に評価されていました。市長の講評にも「私達はそのアイデア・発想力を必要としている」とあり、民間からの違った視点加わる事に大きな期待をされていたようで、一つの期待に応えられたのではないかと思います。これまでの労力を無駄にしない為にも、行政に向け引き続き何らかのアプローチ・アクションを起こして行きたいと思えます。市職員や受講する他団体の参加者と深く交流ができ、行政とのパイプを作り当会をアピールするという当初目的の一つは達成でき良かったと思えます。最後に約半年に渡って参加ご協力頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

地域活性化委員長 古田 雅義



第30回 九州ブロック鳥栖大会

2010.9.24-26 fri-sun 佐賀県鳥栖市

去る9月24日(金)～26日(日)九州ブロック大会が佐賀県の鳥栖市で行われ、長崎YEGからは金曜日からの参加者3名を含む合計25名で参加してまいりました。25日(土)は、ビジネス交流会、癒しの交流会、地域の交流会等の6つの分科会に分かれ、今大会のテーマである“交流”を合言葉に各分科会に参加しました。多くの参加があった第6分科会のパネルディスカッションでは、パネラーとして佐賀県出身である民主党の原口衆議院議員、古川 佐賀県知事らが『地方に人が集まる魅力』とは何であるか?について熱く語っておられました。他県から訪れて来る人達に対するおもてなしの心、『もう一度訪れたい』という気持ちになってもらえるような環境を、若手経済人が先頭に立って作っていかねばならないのではないかと考えさせられました。分科会後はアメニスタジアムにて『1,500人の人間空椅子でギネスに挑戦』が行われ、残念ながらギネス記録には届かなかったものの、他県のYEGのメンバーと思い出に残る“交流”が出来ました。また、その後のサンメッセ鳥栖の野外で行われた大懇親会では、他県のYEGの方々とも大いに“交流”を深めることができました。26日(日)は、記念式典・記念講演が行われ、ダイハツ工業㈱の白水会長が独自の観点から経営理念を語られ、経営に関するヒントをいただきました。また、グランドフィナーレでは特別ゲストとして『猪木ボンパイエ』の曲に乗って、アントニオ猪木ならぬ『アントキノ猪木』が壇上に登場し大いに会場を沸かせ、大盛況のまま大会は幕を閉じました。お忙しい中ご参加いただいた皆様、本当にお疲れ様でした。

渉外委員会 副委員長 笠戸 智仁

☆トピックスをメールしてプレゼントをGET!

広報委員会
から今月の
プレゼント
企画は!!

素敵な委員会で、愛する家族で、大好きな職場で、そして変なYEGメンバー仲間と... 起こった珍事、Happyな情報♥や『エヌ』に対するご意見・ご要望などをメールして頂いた方“6名様”に素敵なプレゼントをご用意しております。有り得ない事とお笑いになるかもしれませんが... 投稿者が多数の場合には抽選になります。応募先は下記のアドレスまで! 嫌になるくらいの投稿をお待ちしております。

✉ E-mail:hirao@kaizer.co.jp [広報委員長 平尾 吉隆]

青年部広報誌「エヌ」 251号 平成22年11月24日発行

編集:長崎商工会議所青年部[広報委員会] 長崎市桜町4-1 商工会館2F

URL <http://www.nagasaki-yeg.com> E-mail:yeg@nagasaki-cci.or.jp

次号は1月
発行予定です。